Ready Steady Go!
Ready Go JAPAN!!

レディー・ステディー・ゴー！
レディー・ゴー・ジャパン！！
月刊ＷＥＢマガジン
第4号・2009年6月号
発行：ＲＧＪチーム事務局
編集：事務局・須藤むつみ
※掲載内容の無断転用を禁止します。

全日本選手権ロードレースで
ＲＧＪ女子ジュニア優勝

六月二十七日・二十八日の二日間にかけて広島県中央森林公園にて「全日本自転車競技選手権大会ロード・レース」が開催された。この二日でおこなわれた四レース・六カテゴリー（Ｕ１７男子、Ｕ１９男子、Ｕ２３男子、エリート男子、エリート女子、ジュニア女子）において二〇〇九年度の日本で一番強いロードレーサーが決まった。

レース開催中の広島県・三原市にある中央森林公園は広島空港のスグそば。レース中も引っ切り無しに広島空港を離発着する飛行機を相当、間近な距離で見られる。会場近くにはホテルもあり、広島市内へも空港から往復するシャトルバスなどを利用し観光が出来る立地。コースは一周十二・三ｋｍと日本国内にあるクローズドサーキットの中では最長の周回コースである。

その会場にＪＣＦが提示した一定の基準をクリアした日本人選手たちが集まる。Ｒｅａｄｙ Ｇｏ ＪＡＰＡＮチームの面々も関東・関西班と分かれつつ集合。二十七日開催のＵ２３レースの終了後を待って、ＲＧＪ監督とともに試走を入念におこなう。試走には明日の「決戦」を控えた他チーム所属の女子選手の姿もチラホラ。このコースでは全日本ロードを含めて、年間数回ロードレースが開催されている自転車レースファンや選手にとっては「おなじみの場所」ではあるが、今年は少し意味合いが違ったと思う。

一つは、エリート男子レース。このレースに先日、日本人としては今中大介氏以来、十三年ぶりのツール・ド・フランスに出場が決定した新城幸也（Bboxブイグテレコム）と別府史之（スキルシマノ）のうち、新城選手が出場すること。もう一つは、エリート女子では、沖 美穂（昨年で現役引退）が十一年間に渡り守り続けていた女子ロードチャンピオンの座を誰が獲得するのか？ということであろう。

そのせいか、男子・女子両エリートレースが開催される二十八日は朝から観客たちが会場に集まっていた。このところの自転車への注目を考えあわせても動員については相当、進歩したように思う。

第12回全日本選手権ロードレース。女子ジュニアの表彰式にて、笑顔を見せる上位3人。左より2位・上野みなみ（八戸工業高校）、優勝・ＲＧＪ福本千佳、3位・岩田知夏（北桑田高校）

エリート選手に混ざり冷静に先頭集団で走行する福本選手

私たちは、補給所近くで場所を確保するため早朝にホテルを出て会場入り。提携クラブチームのサイクルファクトリーＡＲＡＩの隣に場所を無事に確保して準備開始。メカニックやチーム監督は機材の準備や補給の仕込みなど忙しく動く。一方で選手達も朝食を摂りながら、前日に講習を受けた方法でサプリなどを摂取。しばらくしてウオーミングアップを開始。現在、日本で唯一の女子チームであるＲＧＪが、選手六名全員でローラーを並べてのウオーミングアップはかなりインパクトのある光景だったようで、チームテントへ見学に来られる観客の方も多かった。

快晴で気温の上がるなか、定刻にスタートしたレースは、序盤から非常に早いスピードで一気に先頭集団が十九人までに絞られるサドンデスとなった。さらに、そこからの展開は今まで数年間の全日本ロードの女子レースでは見られなかった。序盤から仕掛けた選手を全員で追いかけるという動きはなく、残りの距離を計りつつ泳がせる「余裕」と「読み」が出来ている様子。そして、積極的にアタックをかける女子選手が、次々に先頭を引っ張っては集団に吸収される、という「ちゃんとした自転車レース」が展開されていた。

そんな中、高速展開の先頭集団に福本千佳が残っていた。同じ集団には福本選手とともにジュニア女子である上野みなみ（八戸工業高校）もいたが、周回を重ねているうちに上野選手が脱落。でも福本選手はエリート選手たちに混ざって頑張り、後半まで集団で粘った。

ＲＧＪ吉井玲香は下り苦手にもかかわらず、今まで以上に克服して健闘。自転車走行の技術が非常に向上してきており、さらに元々登坂力はバツグンなので、全日本クラスで暴れる日は近いと思う。ＲＧＪ松田千裕は、ようやく膝の故障も完治したようで、七月のいわてステージとフランスレース出走への手ごたえを感じた模様。しかし、この二名はタイムアウトとなった。

さらに、多くの選手が先頭集団から早々に脱落するも必死で追い続けていた。ＲＧＪ下久保初菜は途中でパンク！そんな彼女を集団に戻すためにＲＧＪ堀 友紀代が後ろに下がって待つ。だが、集団復帰に時間のかかってしまった下久保選手。結局タイムアウトとなってしまった。出だしが良かっただけに残念。その直後、堀選手は一つ前の集団にいたＲＧＪ武田和佳と合流。しかし、この二名もあと少しのところでタイムアウトとなり、たった一人残る福本選手に大きな期待がかかった。

そしてアナウンスが「ジュニアでトップのＲｅａｄｙ Ｇｏ ＪＡＰＡＮ福本選手が、まもなくゴール！」と伝える。その直後、福本選手の姿を確認して安心した。

小さい頃から自転車に乗るも、現在通う高校に自転車部がないため、高体連レースに出場が出来ないハンデ。しかし地元クラブシルベストで練習を重ね、ロードとシクロクロスでセンスと力を磨いた。それはＲＧＪチームにとって初めての全日本タイトル獲得にもなった。

〈福本千佳・優勝コメント〉
会場での応援ありがとうございました。声援がすごく嬉しくて力になりました。完走できるとも思っていなかったですが、頑張れました。今回ジュニア優勝できたのは皆さんの応援、チームサポートあっての優勝だと思います。今後もＲＧＪチーム、並びに福本千佳をよろしくお願いします。

今回の大会において、女子レースがジュニア対象（＝18歳未満年齢）となる高校生選手も含めて47人エントリーという人数は「勝ち」を狙いにきた気合感じる数字である。
前列の選手で・左より２人目が女子エリートで12年ぶりに優勝を果たした西加南子（フォーカス・アウトドアプロダクツ所属：黒と青のジャージ）。彼女はトップベテラン選手ながらここ数年、全日本選手権では上位に食い込むものの優勝はまだなかった。